



平成 24 年 11 月 28 日

## 日本防災士会

### 広島県支部南東部地区活動報告 第 46 号

<三原市本町連合町内会防災訓練・防災展示 >

及び <円一・宮沖地区防災研修 >

<三原市本町連合町内会防災訓練・防災展示>

日時：11 月 25 日 9 時～12 時

場所：三原市三原小学校

主催：三原市本町連合防災会

支援：広島県消防保安課、三原市危機管理室、三原市消防署、三原警察署、三原市中部消防分団、三原市防災ネットワーク、日本防災士会広島県支部南東部地区

参加者：260 人が参加

訓練内容：避難場所の三原小学校に集合安否確認後、  
初期消火、簡易担架搬送、応急手当、AED 操作に加えて防災展示見学

#### [開催目的]

昨年発生した東日本大震災の被害の大きさに鑑み、次に来ると想定される「南海トラフ巨大地震」に向けた備えに取り組む必要がある。本町連合町内会では日頃から地域の防災意識を高め、実際に役立つ防災・減災に向けた訓練が実施された。

#### [防災展示コーナー]

日本防災士会広島県支部南東部地区 6 人が参加、下記の展示コーナーで担当分野を定め、展示品の特徴、必要性を説明、使い方などを示し好評であった。

#### 家具転倒防止コーナー（細川防災士、北浦防災士）

地震による家屋の揺れの説明と、家具の転倒、移動による危険性を説明し、家具の転倒防止方法、固定方法、戸棚から備品、容器の飛び出し防止、ガラスの破損を防ぐ方法など家の中での防災安全の資器材の展示品の特徴や説明を行った。

### 非常持ち出し品コーナー（桑木防災士）

地震や災害発災の混乱した3日間の生活に必要なものを非常持ち出し品また応急手当用具として展示した。それぞれの特徴や必要性を説明、取り使い方などを示した。これから冬場に向かうので季節に応じた非常持ち出し品の詰め替えが必要であり、寒さから体を暖めるアルミ泊の軽量簡易覆いは関心が深かった。簡易トイレに対しても関心の高いことが分かり、排泄物の固形化、脱臭、覆いなど対応改善点を掴んだ。

### 非常食・飲料コーナー（岡田防災士、妹尾防災士）

地震・災害時に必要な非常食品、飲料などの展示と特徴を説明した。今回は非常食品の種類を増やし被災者に状況に合わせた選択が出来るよう配慮したものだった。また女性だけでなく男性も災害時の非常食料への関心が高いことが分かった。

### 常時携帯救命・救出用具コーナー（平賀防災士）

消防団のリーダーとしての長年の経験から選び出されたイザの時に役立つ救命・救助の貴重な用具を展示説明した。一般の人も車に簡単に搭載しておけるので関心を持った人が多かった。

### [南東部地区防災士の展示説明の様子]



防災展示コーナーで説明の様子



支援参加の防災士7人



家具転倒防止コーナー



非常持ち出し品コーナー



非常食品・飲料の展示コーナー



常時携帯救命・救出用具コーナー



防災訓練から防災展示コーナーに移動する参加者

## < 円一・宮沖地区防災研修 >

日時：2012年11月25日 13時30分～16時

場所：三原市中央公民館3階会議室

主催：三原市円一町内会、宮沖町内会

支援：三原市危機管理室、三原市南部消防分団、広島県防災士会南東部地区（三原市）

参加者：60人

内容：図上訓練を通して地域の課題を認識し、今後予想される自然災害、特に「南海トラフ巨大地震」に対して地域の課題、対応を理解し話し合った。今回は町内会の役員及び関心の高い皆さんを対象としたものであった。

講座：「地震、津波の怖さと備え！」＜円一・宮沖で知っておく事＞

防災士 桑木光信

「南海トラフ巨大地震」の想定内容と広島県、三原市に及ぼす影響を知り、特に震度6強の揺れによる被害の様子、更に2時間30分後には津波+1mが押しよせ津波高さは3～4mとなる。瀬戸内海と言えども3～4mの津波が来ればどんな被害が発生するかを示した。津波に対しては早く安全なルートでの高い所への避難が必要である。日頃から上記をイメージして防災意識をもち、備えの必要なことを説明した。

図上訓練説明：三原市危機管理室より円一・宮沖地区を対象とした図上訓練（DIG）の目的や内容、作業ワークの手順など指導説明が行われ、参加者全員による町内単位で計6グループの訓練作業に移った。

図上訓練ワーク：

円一町内会自主防災部平賀部長（防災士）の司会のもとに図上訓練ワークが下記項目ごとに順次進められた。

- ・地図上に参加者の自宅表示
  - ・地域の安全な個所表示
  - ・地域の危険な個所、
  - ・災害時に役立つ箇所、施設
  - ・自分の家などを表示
  - ・道路幅3m以下の道、
  - ・国道、川、海の表示
- 上記で地域の把握をする

想定1：発災前の状況は2日間降雨で100mm、22時

想定2：震度7の地震が発生、被害家屋倒壊、道路崩壊、液状化など被害大

想定3：2時間30分後に津波が襲来の情報あり、各自安全に避難所すると共に、災害時要援護者を誘導する

上記想定で地域でどう避難するか参加者で話し合い、検討してまとめる。

所感：

今回の図上訓練は災害に対する知識を広め、意識を高め、地域をベースにした適切な避難行動をするのに参考になる訓練であった。

図上訓練ワークの様子：



図上訓練についての市担当者の説明を聞く 司会の平賀氏（防災士）の説明



参加者の自宅をマークする



地図上に避難所へのルートを描く



地域の危険な個所をマークする



地域の安全な場所、施設をマークする